

芳しよの増殖に関する研究

日本専売公社しよ試験場 森 大 三 郎
國 生 哲 夫
熊 谷 拓

芳しよの増殖は現在急要なる課題となつてゐる。幸い種子1500粒の寄贈を受けたのでこれを試験材料として諸試験を実施中である。

一 試験の方法

A. 実生苗養成試験

昭和22年5月播種し発芽得苗生育調査を実施した苗木は3年同様並しその同じ種を選別を実施した。

B. 増殖試験

初年度は基礎的挿木試験を行い次年度以降成可多数を挿木する爲の増殖試験を行った。

C. 挿木苗移植試験

挿木苗を七種類に垂り切定し移植し活着状況並生育状況を調査した。

D. 芳しよに対する霜降の可否試験

内地に播栽した場合の寒害を受ける懸念があるので霜降、露出の区を設けて諸調査をした。

二 結果並考察

A. 実生苗養成試験

発芽率60.7% 得苗率42.7% で良好な成績とは云へなかつた。昭和25年3月9日リナロールしよ2409本外1647本 計4056本が得られた。生育は内地くすに比して根径約1.2倍樹高2倍重1.8倍葉量1.9倍で極めて良好であつた。

B. 増殖試験

i. 昭和23年度は日曇区地下6寸区32% 地8寸区72% 地下10寸区12% 無日曇区地下8寸区21.3%であつた。

ii. 昭和24年度はリナロールしよ_の活着率83.6%で 1723本を得た。

iii. 昭和25年度は9月現在に於ける成績は次の通りである(リナロールしよの外寒害)。

区 分	幹部最下部より採種した区	幹部左項以外の区	枝利用の部	2年培養後幹より採種した区	左項枝より採種した区
挿付 本数	2051本	1986本	5984本	221本	74本
活着 本数	1531本	588本	204本	50本	
活着 率	74.6%	29.6%	3.4%	22.6%	0

C. 挿木苗移植試験

挿木の際萌芽した節位を測定し根は黒鷲定ものが92%の活着で最高成績であった。二重根を有するものも上根を利用する事により78%の活着を示しているのでこの両者を併用すれば移植の目的を果し得る。

D. 芳しように対する霜除の可否試験

霜除区が露出区より被害は僅かに少なかった。生高面は霜除撤去後に於て霜除区が樹高根至共生育量が多い9月現在に於ては露出区は根至は1.74m太く樹高1.2cm低い着葉量は露出区との3枚 霜除区3.65枚となっている。又地上部全体被害を被つたものも若芽萌芽生長しているので霜除の必要性は強く認められない。然し乍ら気象的因子で大部差があるを推察されるので本試験のみでは断定し得ないので更に今後の各地の調査に俟たねばならない。

2.4-D苗圃應用試験について (第一報)

長崎縣経済部林務課

林業専門技術普及課 七 佐 系 滋

長崎県森林組合連合会

技師 相川 勝 大

(1) 緒言 水田除藻剤としての2.4-D使用については農業方面で実験者であり既に実用的使用の域に達しているがとが苗圃地に於ける実験の結果は未だ発表されていない。(本年5月の農務課連合に於て日本農林公社熊本地方局の植谷純司氏が「2.4-Dに対する林木稚苗の耐害性並びに除草効果に関する研究」を発表されその結論に於て施用濃度を0.1~0.2%とし、ヒノキ等に於て耐害性が極めて少く苗圃に於て実用化されるとの見解発表されている)而して本試験の結果は施用濃度0.05~0.2%に於て、スギに於ては極めて甚大なる悪作用を受けマツに於ても1年生では被害あり、ヒノキに於ても相当の被害を認めざるを得ないので苗圃地に於ける施用は一般の方法では未だ推奨出来ないという結論に達した。

(2) 試験方法

(a) 試験地 長崎県諫早市久山町長崎県森林組合久山苗圃

(b) 試験期間 昭和25年8月30日より開始し10月末迄にも回の観察を行い現在継続中

(c) 使用薬剤 三井化学工業株式会社製品

假比由0.24~0.35 粉末度100×ツシ以上 水素イオン濃度7.5~8.0
成分2,4ジクロールフェノキシ酢酸メタ水化物95% 以上濃度前記市販薬剤の重量比